

北前船(野辺地町)

素材研究
(国内)

荒波を越えて男たちの夢が紡いだ異空間
構成資産を持つ市町は38に拡大

江戸時代中期から明治30年代まで、大阪と北海道を日本海回りで商品
を売り買いしながら結んでいた「北前船」と呼ばれる商船群。2017年4
月に日本遺産に認定された「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」北
前船寄港地・船主集落」に今年5月、27市町が追加認定され、構成資産
のある全国15道府県38市町に改めて注目が集まっています。



北前船で財を成した豪商が建立した燈籠(野辺地町)



北前船によって京都からもたらされた「のへじ祇園まつり」(野辺地町)



豪商・野村治三郎の別邸[国登録有形文化財](野辺地町)



復元された北前船「みちのく丸」の雄姿(写真提供:野辺地町)

文化も運んだ「動く総合商社」

江戸時代に大阪から瀬戸内海を通じて
関門海峡を抜け、山陰・北陸・東北沿岸を
北上して北海道に辿り着く西回り航路は、
経済の大動脈でした。大阪と江戸を結んだ
定期航路だった「樽廻船」に対して、西回り
航路で運航される「北国廻船」に用いられ
た舟才船型が「北前船」と呼ばれるようにな
りました。

北前船は、コメをはじめとする物資の輸
送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れ
た多種多様な商品を別の寄港地で販売す
る買い積み方式によって利益をあげたこと
から、「動く総合商社」などとも形容されて
います。

そして、生活必需品に加えて雛人形など
の高級品を運んだ北前船は、各地の様々な
文化を伝える役割も果たしました。天候に
左右される北前船の航海は「風待ち」とい
う知恵を生み、船乗りたちは料亭や花街で
唄われる民謡などを他の土地に伝えたので
す。「おけさ」や「あいや節」と呼ばれる民謡
は、熊本で生まれた「ハイヤ節」が日本海沿
岸まで広まり、「佐渡おけさ」などに姿を
変えました。北海道から京都や大阪に運ば
れた昆布からは、和食を代表する「昆布だ
し」という食文化も生まれています。

独自の風土と空間を生み出す

北前船によって発展した港には、廻船間

屋や商家、蔵など大規模な建造物も残さ
れています。市街地では、小路に沿って家々
が軒を連ね、ほとんどの小路は海に向かって
いるという特徴的な町割りです。船乗りの
癒しだった花街や日和を見た小高い山、航
海の安全を祈った寺社仏閣など、北前船は
港々に独自の風土と景観を生み出すこと
にもなりました。

北前船によって育まれた風土と景観は、
地域の貴重な観光資源として脚光を浴びつ
つあります。北前船が繁栄をもたらした寄
港地・船主集落は、時を重ねる中でロマンに
彩られた異空間となり、新たな旅行流動を
生み出す貴重な観光資源として期待され
ています。

今年5月に追加認定された青森県野辺
地町では、「観光
地とは縁遠かった
場所にスポットラ
イトが当たる形
となった。同じよ
うに構成資産を
持つ鱒ヶ沢町や深
浦町とも連携し
ながら、広域観光
による地域活性
化も視野に交流
人口の拡大に取
り組んでいきたい
(地域戦略課)」
考えです。



北前船の船乗りたちが出航前に日和を見た「日和山」(小樽市)



商家・長野商店の店舗と石蔵(石狩市)